

図書室だより

中央公民館内 9:00~16:30

◆デッカチ先生学校日記

西村岑一／著（書肆犀）

“団塊の世代”が高校に入学する頃、昭和30年代後半の山形県教育の大きな変革時期。消えていく昼間定時制と生まれたばかりの全日制普通化の小さな高校で、著者が経験したことをもとにまとめたもの。



◆日本語力の基本

野口恵子／著（日本実業出版社）

「窓を閉めてもらってもいいですか?」「違和感を感じる」「地震が発生をする」

ん? ちょっと待った! その日本語、ヘンですよ。知らないうちに、恥をかいているかも?! あなたの日本語が「まとも」かどうかわかります!



★★今月の新着図書★★

- ★コーヒーもう一杯
平安寿子／著（新潮社）
- ★こなもん屋馬子
田中啓文／著（実業之日本社）
- ★ジェントルマン
山田詠美／著（講談社）

金山杉俳句会報

第340回

踏み外し雪の深さを知りにつけり
美しく生きよとちかふ冬薔薇
旧正は冬の真ん中納豆汁
雪の降る百人一首読み上げし
除雪車が来て門毎に人が出て
七草や囀んでせりの香野のかをり
温顔の揃ひし年酒酌み交す
受験子の笑顔にほっとしてゐたり

智恵子
セイ子
サタエ
アキ子
敏子
恵美子
よし子
順子

森のいっせ図書コーナー その75

『うんこ日記』

「ただいまー」
日曜日の夕方、父さんが1週間の旅から帰ってきました。
しよっへいは、自分の描いた絵を見せました。
「えへん、この1週間の僕の絵日記」
それは、びっくりするような7段ついで。
「1段目は、父さんの出かけた月曜日のお味噌汁。」
「2段目は、父さんのいない火曜日の夜のほっぺん草のごまあえ。」
「3段目は……」
「うーん、この絵はすごい。」父さんは、記念に名前を入れました。
父さんと、母さんと、しよっへいと。ちゃんとちゃんとの1週間。今日はそろって
「いただきますー」
この本は、ただのうんこの観察日記ではありません。食べ物とうんこの見かけで、寂しかった1週間の経過を話したい気持ちがあふれています。寂しい気持ちをうまく説明できないから、うんこを食べた物で説明しているんですよ。クスッと笑えて、ちょっとキョトンとくる絵本です。

（村中李衣・川端誠／作 B.L出版）

俳句かねやま紅風会

荒屋 阿部 勝子
行動のメモを片手に年の暮れ
漬物の小樽増えたり雪の室
荒屋 関 喜美子
凍のなか流る、星や亡友しのぶ
四方山の話の余裕日脚伸ぶ
菅 越 庄司けみ子
極寒や襖も白く寝静まり
似顔絵を描くも楽しげ凍る窓
七日町 青柳キエ子
賽銭に世情の見ゆる初詣り
自我の境冬の椿を前にして
七日町 柴田 栖静
燭ひとつ灯れり雪の義経堂
水仙の香りの中に午後ひとり
七日町 伊藤 敏子
松とれて二人の米を磨ぎにけり
底冷や朝のスリッパ音たてて
羽 場 坂本徳太郎
松過ぎの子等送り出す老ふたり
前奥歯転がしてみる冬林檎
上 台 阿部 一
一本の綱が頼りの雪の屋根
身障の妻の手をとり古稀の冬
内 町 矢口智恵子
人日や夫婦偕老声高し
遠ざかる思ひ確かむ女正月
七日町 村松 衾風
地震告ぐる音とも聞ゆ虎落笛
雪しとゞ歩みあぐねし通院路